
こころのおしろ

源雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こころのおしろ

【コード】

N0236P

【作者名】

源雪風

【あらすじ】

砂のお城を作る僕と彼女の儚いお話。

「世界で一番きれいなお城にしようね」
「うん」

僕たち二人は海でお城を作っている。

夏の太陽が体をじりじり焼く。

麦わら帽子をかぶってくればよかった。

汗のせいで手に砂が張り付いてざらざらする。

生きてるって感じがする。

風が吹いて彼女の長い髪がそよぐ。

僕はじっと見てしまう。

彼女と目が合う。

恥ずかしそうに笑っている。

お城の壁に、彼女は拾っておいた白い貝殻をいくつも埋め込んでいる。

僕はお城のとんがった屋根を作る。

てっぺんに大切にとっておいた、お子様ランチの旗をさす。

くまさんの絵も笑っているように見える。

彼女とこんなお城に住めたらいいな。

お城が出来たころには、夕焼けが笑っていた。

何故かちよっぴり悲しい気分で、僕はお城を眺めた。

彼女も僕の隣でお城を見ている。

「きれいだね」

「うん」

僕には夕陽のせいでお城が燃えているように見える。

でも彼女を悲しませたくないから、言わない。

その時、波がお城を襲う。

僕はお城を守れない。

泣いてしまいたい。

彼女は海を見つめて僕だけに言う。

「あのお城は私たちだけが知っているのよ」
彼女は笑っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0236p/>

こころのおしろ

2010年11月20日17時52分発行